



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 20, 324-326
Issue Date	1993-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25969
Type	other
File Information	20_P324-326.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (1993年度)

独 語 学 概 論		清 水 誠 植 木 迪 子
独 文 学 史 概 説		石 原 二 郎 青 柳 謙 二
独 語 学	独語学の基本	植 木 迪 子
独 語 学	Landeskunde	植 木 迪 子
独 語 学	北ゲルマン語とドイツ語	清 水 誠
独 語 学	『ニーベルンゲンの歌』研究の基礎	岡 崎 忠 弘
独 文 学	19世紀半ばのグラビア雑誌	高 橋 吉 文
独 文 学	Schreiben und Textproduktion	Sigrid Holzer
独 文 学	Märchen の読解及び解釈	Michael Haas
独 文 学	文学テキストにおける「表出」	石 原 次 郎
独 文 学	テキスト読解の基礎	石 原 次 郎
独 文 学	世紀転換期のオーストリアとムージルの世界	原 研 二
独 語 学 演 習	Problem der deutschen Syntax	植 木 迪 子
独 語 学 演 習	中低ドイツ語	清 水 誠
独 語 学 演 習	Sprache im Alltag	Franz Schneider
独 語 学 演 習	Linguistische Textanalyse	Franz Schneider
独 文 学 演 習	Einige moderne Erzählungen und deren Interpretationen	青 柳 謙 二
独 文 学 演 習	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青 柳 謙 二
独 文 学 演 習	テキストにおける「比喩」の構造	石 原 次 郎
独 文 学 演 習	Gemeinsprache—Fachsprache—Lexikographie	Franz Schneider

研究室行事記録

- ◎ 1993年2月20日に北海道大学文学部301号室において1992年度卒業論文・修士論文発表会が開かれた。
 - ◎ 1993年には、文学部で下記の研究会がもたれた。
 - ・ 5月8日／9日 「Chomsky: A minimalist program for linguistic theory を読む」
 - ・ 6月5日 林 馨子 「Verb Projection Raising」
白渕幸子 「Subjektivität und Topikalität im Deutschen」
- 〈留学関係〉
- ◎ 1993年8月に小川 了氏がミュンヘン大学から留学を終え帰国した。
 - ◎ 1993年8月に荻原達夫氏がミュンヘン大学へ留学のため出発した。
 - ◎ 1993年9月に白渕幸子氏がパッサウ大学へ留学のため出発した。
 - ◎ 1993年9月に清水 誠氏がオランダ・フローニンゲン大学へ留学のため出発した。
- ☆ 1993年5月8日に年報の総会が行われ、幹事選出、入会報告等が行われた。

1992年度論文題目

卒業論文

- 岡田麻子：Ingeborg Bachmann 《Ein Schritt nach Gomorrha》研究
- 奥村利知：ニーチェとドストエフスキーの接点と差異（『ツアラトゥストラはこう言った』と『カラマーゾフの兄弟』を中心に）
- 国田志保：中高ドイツ語における人の心情・性質を表す形容詞について
- 中村常夫：トーマス・マンの『ヴェニスに死す』論
- 古川亜希：「豹（Der Panther）」——リルケとその周辺
- 前原真吾：Ein Dokument des schöngestigen Jünglings.
——über »Hermann Lauscher« von Hermann Hesse.
- 村上由利子：『ニーベルンゲンの歌』——プリュンヒルトの変貌
- 山本由和子：F. Hohler „Der Abstecher“——『寄り道』

修士論文

- 一瀬幸司：ドイツ語場所前置詞の意味論的考察
- 田野中純子：E. T. A. ホフマン：『砂男』（“Der Sandmann”）研究

会 員 名 簿

◎青柳 謙 二	石川 克 知	石橋 道 大	石原 次 郎
伊藤 祐紀子	岩井 洋	岩田 聡	植木 迪 子
白 淵 幸 子	梅津 真	江口 豊	岡田 麻 子
○小川 了	荻原 達 夫	小澤 幸 夫	加藤 寛 蔵
川島 淳 夫	川東 雅 樹	岸川 良 蔵	佐藤 修 子
佐藤 俊 一	塩谷 幸 子	※塩谷 饒	清水 誠
神 久 聡	鈴木 将 史	瀬川 修 二	高橋 修
高橋 吉 文	田中 慎	田中 剛	○田野中 純 子
対馬 晃	寺田 龍 男	○中川 勝 昭	中 祢 勝 美
名執 基 樹	西川 智 之	林 馨 子	藤本 純 子
前原 真 吾	三浦 國 泰	最上 英 明	森田 一 平
山田 恵 子	山田 善 久		

◎は会長、○は幹事、※は賛助会員。なお、次の方々には今回に限り特別寄稿していただきました。

金子 元 臣 安高 誠 吾 山田 貞 三 吉田 徹 也

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行う。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行う。
4. 本会員は北海道大学文学部独語独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。
9. 本会に賛助会員をおく。